

社会学的啓蒙 2.0

いかにして

「新しい中間層」イデオロギーを
可視化するか

橋本 努

数理社会学会 201703

■20 世紀に「解くべきだった最大の課題」

1989 年「東欧革命」

(ソビエト連邦 (ソ連) の衛星国であった東ヨーロッパ諸国で共産主義国が連続的に崩壊)



→橋本努『自由の論法——ポパー・ミーゼス・ハイエク』(創文社)

資本主義と社会主義のイデオロギー対立はいかにして科学的に決着がつくのかという問いが 20 世紀を支配していた。しかし多くの社会学者たちは誤った。「科学的解は存在しない、価値論的にも解決できない」と考えた。

→啓蒙 1.0 (設計的合理主義) の失敗、進化論的理性の重要性。

■ 21世紀は「新たな難題」とともに始まった。

2001年「9.11 アメリカ同時多発テロ事件」

(航空機が使用された史上最大規模のテロ事件)



→橋本努 『帝国の条件——自由を育む秩序の原理』(弘文堂)

21世紀は、グローバリズムの矛盾をラディカルに提起することから始まった。根本問題とは「世界政府はいかにして可能か」である。

→ジンメル=高田保馬の問いの再来？

→(1) トービン税と貨幣発行自由化による世界貨幣の自生的創造

(2) 関税改革による民主化と難民の同時支援

■ 「近代を相対化したポスト近代」の相対化

2011年福島第一原子力発電所事故

(3月11日、東京電力の福島第一原子力発電所で発生した炉心溶融（メルトダウン）など、一連の放射性物質の放出をともなった事故)



→橋本努『ロスト近代——資本主義の新たな駆動因』（弘文堂）

「近代/ポスト近代/ロスト近代」という区分に基づき、新たな資本主義の駆動因を「増殖する欲望」ではなく「潜在能力の開発」と「エコロジー」に求める。

→「いかにして持続可能な生態社会を築くか」への問い。

「高貴な野生人としての環境市民」の創造へ。

■啓蒙思想 2.0 プロジェクト

	ファスト・ライフ（高速の快 楽、自分を超越する）ドーパ ミン、アドレナリン、ノルア ドレナリン	スロー・ライフ（生の享受、 食事と会話）セロトニン
カーネマン・ファスト（ヒュ ーリスティック） エンドルフィン（直感）	記号操作的な消費社会文化の 担い手・活動型人間 創造階級(1)	伝統的な食文化・慣習・コミ ュニティの再興 創造階級(2)
カーネマン・スロー（リーズ ニング、啓蒙主義リベラル） ギャバ（我慢・抑制）	難関専門職の理想	左派エコロジスト（有機野菜 文化運動）

橋本作成。

■成長論的自由主義の拡張（啓蒙 2.0）

(1) 進化論的理性/生態的理性（『自由の論法』）

(2) 「問題」という開口部（橋本努『社会科学の人間学』勁草書房）

(3) 世界政府へ向けてのユートピア的企て/政策構想（『帝国の条件』）

(4) 自然の多産性をよるこぶ「環境市民」（『ロスト近代』）

(5a) A・セン批判→「**潜勢的可能性としてのケイパビリティ**」

(5b) リバタリアン・パターナリズム批判

→「**アスリート・モデル／活動型福祉国家**」へ

(5c) 「**自生的な善き生**」の構想（自己のウェルビイングについての無知→意味供給源としての集団的繁栄/他者にもてなされた生/回顧された生）

(6) 二大政党制による「**可謬型/熟成型**」立法プロセス

■ 「新しい中間層」とは



村上泰亮「新中間大衆」論との対比

→コンサマトリーな大衆文化受容者

これとは対照的に、韓国社会学者ハン・サンジンが構築した「**中民** (Joongmin)」理論

→韓国における二大政党制の基礎理論の一つとなった。

→「中民理論研究所」の活動 (<http://www.joongmin.org/>)

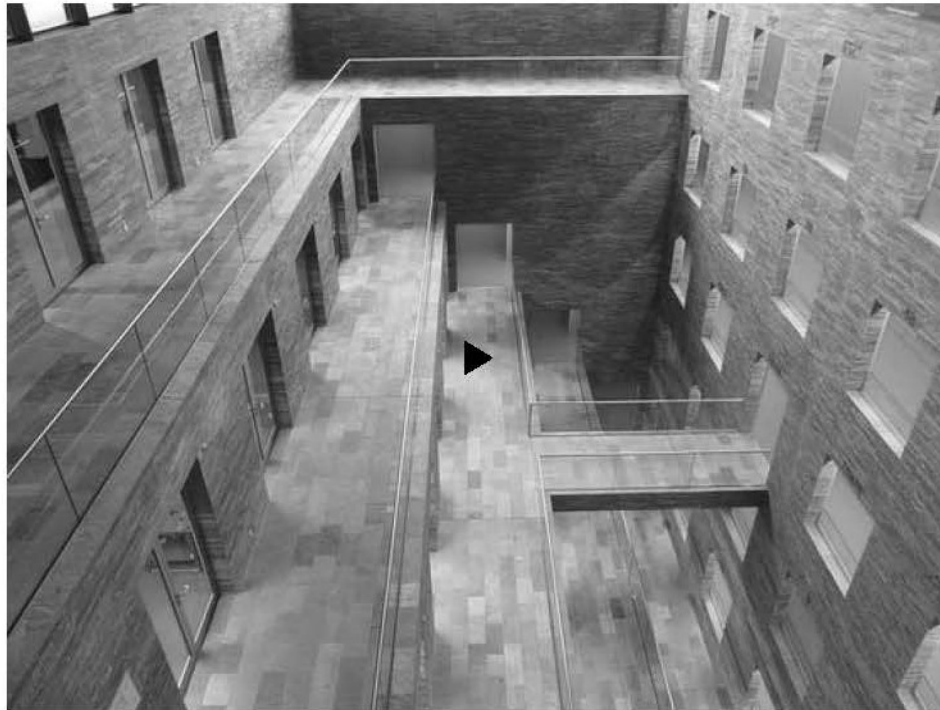
→「**シノドス国際社会動向研究所**」の立ち上げ(2017. 4. 1. 予定)

クラウドファンディング中

→理論に裏打ちされた社会調査で「新しい中間層」の可視化をめざす。

新しい政治を生み出すために、シノドス国際社会動向研究所をつくりたい！

Category : [ソーシャルグッド \(/category/social-good\)](#) User : [Serizawa Kazuya \(/profile/Serizawa-Kazuya\)](#)



現在の支援総額

¥1,110,050

パトロン数

84人

募集終了まで残り

20日

現在55% / 目標金額2,000,000円

[このプロジェクトを支援する](#)

このプロジェクトは、All-In方式です。
目標金額に関わらず、2017/03/26 23:59までに集まった金額がファンディングされます。

シノドス国際社会動向研究所では、社会調査の専門家と理論家・思想家を結びつけ、海外の研究機関と連携し、日本の政治を変革していくための資源を提供していきます。

■ 「新しい中間層」とは（２）

橋本努 『経済倫理＝あなたは、なに主義？』 講談社メチエ

→四つの質問に基づく「イデオロギーの16類型」

- A. 企業は、短期には損失を被るとしても、あるいは社員に不利益を強いるとしても、長期的な視野に立って道徳的に行動すべきであろうか。
- B. 経済政策や制度の理念として、「公正」と「秩序の安定・成長（全体の利益）」のいずれを優先する社会が望ましいだろうか。
- C. 企業が連帯のないし家父長制的な組織を保持したい場合には、それを自由に認めるべきであろうか。それとも、どの企業であれ、組織内部において開かれた人間関係を構築すべきであろうか。
- D. 企業は、基本的には金儲け第一主義で行動してよいだろうか。それとも、社会全体のなかに、倫理の一翼を担う存在として包摂されるべきであろうか。



→既存のイデオロギーとは異なる「近代卓越主義」の台頭 (YYYY)。 21世紀のイデオロギーと呼ぶことができる？

→大学生アンケートの結果(2015年6月実施)：リベラリズム 53名 近代卓越主義 32名 新自由主義 31名 新保守主義 26名 平等主義 24名…

→イデオロギーの社会的分布を分析したい。

■新しい「市民派リベラル」の析出のために

- (1) 前近代的伝統支配 vs 近代啓蒙的な合理主義（政府・中間団体・消費者による市場社会・公的組織の制御）
→進化論的理性にもとづく「啓蒙 2.0」
 - (2) 上意下達の国家権力 vs 下からの参加に支えられた自治
→社会意識調査にもとづく「中間層」の可視化と自己理解・リベラルな権威
 - (3) 心情一体型の共同体・ナショナリズム vs 相互承認に基づく議論集団（プライバシーへの寛容）
→他者の歓待・他国への礼節・心情の世界化・熟議実験（討議型社会調査）への参加促進
 - (4) 大企業・自然独占企業による市場支配 vs 地域ごとに分割された財・サービス供給の統治（商店街支援、大店舗反対）
→市場の道徳化・社会的起業家への支援
 - (5) 貧困の自己責任（生存権のミニマム保障） vs 市民参加や政治的自律のための経済的条件保障
→リベラルな家族に基づく平等な国民再生産の支援・社会関係資本の促進
 - (6) 権威主義（保守エスタブリッシュメント） vs 反権威主義、権力の批判的監視
→二大政党制による権力分割
- ...

■まとめ

21 世紀の問い

(1) 「世界政府はいかにして可能か」

(2) 「持続可能な生態社会はいかにして可能か」

▶(3) 「21 世紀型イデオロギー (=近代卓越主義)」を担う「新しい中間層」は、これをいかにして可視化できるか。

→啓蒙思想 1.0 (設計主義) の失敗から、啓蒙思想 2.0 (活動的生を促進する環境条件への志向) のプロジェクトへ

→例えば、「可謬型/熟成型」の立法過程に基づく二大政党制の展望